


2019～2020 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーは世界をつなぐ

●会長 内田 信行

●幹事 中島 祐爾

 No.1695 令和 02 年 02 月 19 日 第 29 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町 4 の 2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町 4 の 2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org


■点鐘

■来訪者紹介

(会長 内田信行)

米山奨学生 李靖清さん



■会長の時間

(会長 内田信行)

今日は、二度目の夜間例会です。

お酒を飲みながらの例会なので、普段言いたくても言えないことが、若い会員方に、限らずあるのではないのでしょうか、折角なので、お酒の力を借りて嫌なこと我慢せず言いたい事、又、熊本東南ロータリークラブあり方に提案があれば言って頂くいい時ではないのでしょうか、それから先日の例会でグローバル補助金について少し話しましたが、例会後の臨時理事会で協議した結果前向きに実施することになり 3 月に数名で台湾に行き、現地の視察、打ち合わせをしに行こうと思っております。

詳しくは、次回の例会で報告したいと思います。

■幹事報告

(幹事 中島祐爾)

1)

第 1 回臨時理事会報告。



■出席報告

(出席・プログラム担当委員 松岡泰光)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
02 月 05 日	43 (免 4) 39	32	3	35	89.74
02 月 19 日	43 (免 8) 35	19			54.29

☆出席免除

02 月 05 日 住江正治 島村徹男 鷺山法雲 草村安宏
 02 月 19 日 志賀重人 住江正治 島村徹男 河岸彦治
 鷺山法雲 草村安宏 佐野 茂 古庄浩二

☆欠席者 (4 名)

02 月 05 日 岡本千代門 川崎直樹 堤 勝也 山坂哲生

今度の 100% 出席の日は 02 月 26 日です。

■点鐘

編集者 沼田敏雄

■今後の予定

2 月	02 月 21 (金)	熊本第 3 グループ I M	熊本県 熊本市	A N A クラウンプラザホテル 熊本ニュースカイ
		福井学、堀内健太郎、松本繁、松本一也、前田日出夫、宮川義行、松岡歩紗実、中島祐爾、内田信行		
	02 月 23 (日)	国際奉仕のつどい	大分県 大分市	大分県消費生活・男女共同参画 プラザ「アイネス」
3 月	02 月 29 (土) ～ 03 月 01 (日)	会長エレクト 研修セミナー	熊本県 熊本市	熊本ホテルキャッスル
		松本一也		
3 月	03 月 20 (金)	RLI パート II (2)	大分県 大分市	ホルトホール大分
		松本一也、福井 学		
4 月	04 月 05 (日)	地区研修・協議会	熊本県 熊本市	熊本城ホール
		松本一也、福井学、山田公也、松岡歩紗実、宮川義行、永野昭一、白石繁、吉田嘉昭、前田日出夫、彌富照皇、出先教明、村瀬直久		

～ 2 月夜例会 懇親会～

■乾杯

(会長エレクト 松本一也)



ポリオ根絶 次はパキスタン

投稿日：2月18, 2020

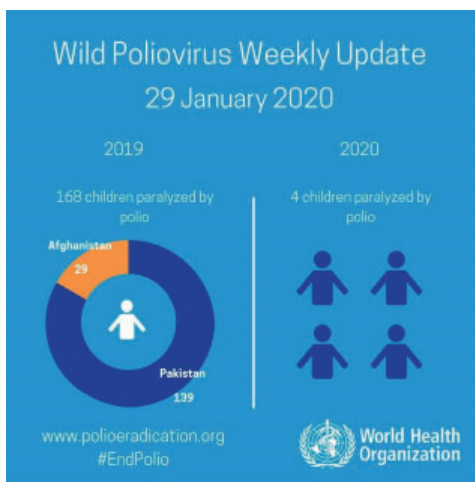
寄稿者：大和 豊子

(岡山南ロータリークラブ、チームポリオジャパン)



GPEI (世界ポリオ根絶推進活動) から毎週報告される野生株ポリオ発症数は、2018年の33例(パキスタン12例、アフガニスタン21例)と比べて、2019年は173例(パキスタン144例、アフガニスタン29例)とパキスタンで爆発的増加を示しています(2020年2月4日現在)。2020年にも新たな症例が報告されており、非常に厳しい現実です。

2020年にも新たな症例が報告されており、非常に厳しい現実です。



1月のポリオのデータ

2019年12月、パキスタンのNIDs(全国予防接種日)に2日間参加した私たち「チームポリオジャパン」の13人は、現地のロータリアンから「2020年の発症を0にする」という意気込みを聞いたばかりでした。

三桁となっている理由は、ワクチン接種を拒否する人が依然として多いこと、またSNSなどで流れる誤った情報でポリオワクチンへの恐怖心がおおられていることだということで、これから少しの間はまだ増えるかも知れないな〜と心配しています。



街中は厳重な警護

パキスタンのNIDsでは2日間とも、戸別訪問による生ワクチン投与活動を行いました。初日は現地のロータリアンがホテルに迎えに来てくださり、マイクロバスで出かけました。街中にも警護兵、装甲車が散見され、まだ安全とは言えない印象を受けました。

1日目はポリオサポートセンターから始まり、ロータリーの支援を受けたソーラーシステム・水フィルター設備を視察。「安全な水を供給することで、人びとを集め、ワクチンの必要性をアピールする方針」だそうです。

チョークで壁に記録



次いで、ガルシャン・タウンというカラチのスラム街に入りました。比較的穏やかな雰囲気、拒絶する家族はほとんどいません。ポリオワーカーは携帯用の冷却ポーチを持って行動していました。住民票代わりの台帳を作成していましたが、壁に記録をチョークで書いてから、台帳に転記していました。記録するのは、「何月何日、何人の子どもにワクチンを投与」とか「この家に遊びに来ていた子どもで投与したのは何人」、「次はこっちの方向に行く」といったことです。

午後からは何百キロという遠方から高速バスでカラチに入ってくる子どもたちにワクチン投与をする作業でした。高速道路の要所に「PTP」(Permanent Transit Post)というロータリーが支援する予防接種の常駐所が設けられており、高速バスをここに誘導します。通れないほど超満員のバスの中に、警護兵とポリオワーカー、ロータリアンが乗り込み、かき分けるようにして5歳未満の子どもを見つけては、左手小指の油性ペンマークを確認して、マークのない子どもにワクチン投与するのです。「もうしている」とか「しない」と強い口調と目つきで拒否する父親も多く見られました。



冷却ポーチを見せるポリオワーカー

2日目はマチャーコロニーという最底辺のスラム地域で、初日より拒絶する家族が多い印象でした。「困っているイスラム教徒はすべて受け入れる」というパキスタンの人は、自分の食べるものを分けてでも助けたいという気持ちのようで、アフガニスタンやバングラデシュからここに住みついた人も多いそうです。ここでも、クリーンウォーター供給施設を見学しました。

午後はカラチ・カントンメント駅でのワクチン投与活動。すごい人混みで、なかなか立ち止まって説明を聞いてくれる人はいません。パキスタンの人びとに、ポリオに感染してまひが起きるとその子の人生に大きなハンディーキャップを負わせるということ、それがワクチンという手立てで予防できることを知ってもらうことは、非常に重要です。

ロータリーが支援する安全な水供給施設



2度も水供給施設を視察したのは、ワクチン投与よりもまず必要なのは安全な水、という人びとの声に配慮し、水を汲みに来た人たちにワクチンの重要性をアピールすることを第一の戦略と考えているからです。チームポリオジャパンに急遽同行したイスランプールのガバナーエレクトから、「クリーンウォーター施設設置を、日本の地区あるいはクラブと合同で支援できないか」と提案がありました。検討の余地がありそうです。

パキスタンのポリオ根絶活動を成功させるために、パキスタン政府、パキスタンのロータリアンも多大な努力をしています。彼らの行動を高く評価し、物心ともに支えて行くことが大切だと思っています。

たった2滴のワクチンで… 海をこえた ワクチン投与体験記

投稿日：4月11, 2017
寄稿：田代恭子（箱根ロータリークラブ）

もうすぐデリー。ヒマラヤからくる川は夕日に光っていた。



だをすり抜ける。混沌として、通りには牛や水牛、ヤギまでも… まるで動物園だ。

ロータリーのシャツと帽子をかぶって、街を歩く。世界に猛威をふるったポリオ（小児まひ）を撲滅するのも、あと少し。ポリオ撲滅には日本人のかかわりが大きい。インドではさまざまな工夫を凝らして、国全土で二度と罹患者が出ないよう、5歳以下の子どもたちに全国一斉でワクチンを投与するようになった。ワクチンの保存用冷凍庫も研究された。

今回、ロータリー第2780地区（川崎と横浜を除く神奈川）のポリオ撲滅行動グループは、貧困レベルが最も厳しい地域を担当した。ヒンズー教徒の庭先にバスから降りると、子どもたちがどんどんやってきた。赤ちゃんを抱っこした若い母親やおじいさん。5歳以上の子は近所の子どもたちを連れてくる。口に2滴の命の薬水を受ければ、おいしいペコちゃんの飴ももらえる。棒の付いた飴は人気だから、私のトランクは飴で半分。子どもの服はボロボロ、裸足の子どもが多い。ワクチン接種が終わっても、なかなか帰らない。



デリーだけで1日3,000人以上がポリオを発症した現実がある。ロータリーが長年取り組んできたポリオ撲滅。この運動に出会って、現地で活動できるのは幸せ。私は、人生で最高に素敵な時を過ごす。

たった2滴のワクチンで、自由に歩き、走り、木登りできる体が約束されるなら、また来年

も同じロータリーのシャツを着て、元気に日本から行きたい。



4年前の視察時に、セントステファン病院のポリオNID2017_3病棟で、目を輝かせる青年に出会った。ポリオ病棟にいた青年は、つらい手術とリハビリを繰り返していた。しかし、ここまで来て治療を受けられるのは幸運なことで、彼もそれを意識していた。彼は英

語で、「日本のロータリークラブの皆さんに、ありがとうと伝えて下さい」と言う。「承知した。伝えるよ。」私は、ほほ笑んだ。

これを読まれた方へ。お近くのロータリーの方々はこの言葉を伝えてください。「ありがとう」と。

最後に、この街の子どもたちと、皆さんに向けてあとちょっとのポーズ！



「四つのテスト」は他人を判断するための道具ではない

投稿日：2月14, 2020

By マーチン “マーティー” ポスティック・ジュニア
(米国オクラホマ州、第5750地区パストガバナー、OKCサンライズ・ロータリークラブ)

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

論争の多い今日の社会では、政治的・社会的な議論で自分の支持を表明したり、誰かの考えや発言、行動を批判したりするために、ロータリアンが「四つのテスト」を利用することがあります。意見が対立する双方の会員

が、互いに「四つのテスト」を使って自分の主張を裏付けたり、相手をおとしめたりすることもあります。ソーシャルメディアでも、「四つのテスト」に背くと思われることについて意見し、そこにほかの人が意見や侮辱を追加していくといった状況です。

そうすることがロータリーに対する人びとの認識にどのような影響を与えるか、ほとんど考えもしないで。

そこで私は、基本的にこう考えるのです。

「四つのテスト」は鏡。窓ではない。

私たちは「四つのテスト」をとおして他人を見るのではなく、自分自身の考え、意見、行動を考えるべきです。このテストは私たちが自分自身について判断するための鏡であって、他人を判断するための窓にははいけません。

「ある考え、意見、行動が四つのテストに背くと判断したら、それは間違っていると声明するのがロータリアンの義務だ」という話を私は聞いたことがあります。また、さまざま話題において、論点を支持するために「四つのテスト」が引き合いに出されることがあります（それらの中には支持しがたいものもあります）。さらにネットでは、あらゆる思想や概念を支持するために、大量のいわゆる“事実”で議論の足場を固めるということも行われています。

「四つのテスト」とはそういうものではないと思います。考えをどう評価するかということより、お互いにどのように接するかということ、四つのテスト」は語っているのだと思います。

もちろん、「四つのテスト」を守ることは簡単ではありません。「言行はこれに照らしてから」とあるように、自分がどのような考えをもっていても、大切なのは、その考えの下にどう行動するかということになります。例えば、「この人は好きじゃない」という思いがある場合、そこで何を行うべきか。私たちは、そういう思いや、自分を満足させるための否定的な行動にでたいという欲を払いのけることができます。逆に、相手に何かを言ったり、ほかの人に考えを伝えることもできます。

この点においてソーシャルメディアは物事を歪めてしまい、自分の考えに同調するコメントであれば、否定的で辛辣、または偽りであっても受け入れられてしまうのです。「四つのテスト」の名の下にそのようなコメントが投稿されたとしたら、それは明らかに公平ではなく、好意と友情を深めることなど絶対に不可能です。

そう考えると、政治的または社会的な物事について論じるときに「四つのテスト」に触れることは、それ自体がこのテストに背くことだと思ふのです。人の見解に反対し、非難を浴びせながら、ある立場を支持するために「四つのテスト」を利用することなど決してあってはなりません。

私たちは、すべての友人に「四つのテスト」について学んでもらう必要があります。説き伏せる必要はありません。ロータリーは、非政治的、非宗教的な組織であることを自負しています。だからこそ、ロータリーは政府や宗教団体が踏み入ることができない領域でも活動してくることができたのです。倫理的かつ道徳的な「四

つのテスト」を武器に互いを傷つけ、ロータリーの評判を汚すことはやめたいものです。

坂橋南区扶輪社が創立32周年 会長祝辞をお送りしました。

祝 辞

熊本東南ロータリークラブ
会長 内田 信行

このたび坂橋南区扶輪社が創立32周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴クラブにおかれましては、創立以来次代を担う子供たちの健全育成、地区の発展につながる様々な取り組みを続けておられます。

皆様の奉仕活動が地域に根ざし、世代を超えて地域の人々をつなぐ大きな力になっていることは、大変有義深いものがあり、その熱意とご尽力は私ども熊本東南ロータリークラブの模範とするところであります。

32年前に両クラブの敬愛すべき先輩方の功績により姉妹クラブ締結がなされ、現在まで本当に楽しく交流させて頂いております。特に今や慣行となりました相互訪問は、私ども熊本東南ロータリークラブの会員にとりましては待ち遠しいイベントとなっております。今後とも益々親睦、交流を続けさせて頂きたいと思っております。

さて、熊本地震から早や4年が経過しようとしています。震災の際は貴クラブから多額の支援金をお預かり致しました。私たちはこの心温まるご厚意を決して忘れることはありません。改めて心底より感謝と敬意を申し上げる次第です。

お陰様で震災復興も完全ではありませんが着実に進んでいます。被災された方々にも、少しずつですが生活再建が進み2020年度には、被災者の方の住宅はほぼ完成する見込みと思っております。これからも、私たちは地震災害からの復興を支援し、奉仕活動を継続したいと思っております。貴クラブとタイアップ（グローバル補助金での）した国際奉仕も具体的に進んでいることを感謝します。

最後に、このたび32周年記念に出席してお祝いをするところですが熊本の地より、32周年が盛会に迎えられることをお祈り致します。

そしてこれからの板橋南拘区扶輪社の更なる発展と会員皆様の益々のご健勝をお祈り致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。